

特別寄稿(アルゼンチン)

『サラリーマン西遊記』番外編 「ワールドカップ」～ アルゼンチンから見た観戦記



堀 哲三郎 (第 23 期)

MBI卒業生の皆様へ！

MBI第 23 期で(元大塚製薬)、本年 2 月に著書『サラリーマン西遊記』を刊行し、「想定外の作家デビュー(?)」を果たした、アルゼンチン在住の堀 哲三郎です。その後、皆様から著書に対する心温まるご感想やご支援のお言葉をいただき、誠に有り難うございました。この場をお借りして、改めて厚く御礼申し上げます。

さて、今回の「ワールドカップ」は隣国ブラジルでの開催。そして、スーパースターのメッシ選手を擁するアルゼンチンは優勝候補の一つ。そこで『サラリーマン西遊記』番外編として、『「ワールドカップ」～アルゼンチンから見た観戦記』として以下にご報告申し上げます。

「ワールドカップ」とともにニュースを賑わす「アルゼンチン、デフォルトか?!」の記事。アルゼンチンは今、私腹を肥やすのが好きな汚職体質の政権のもと、政治も経済もボロボロになって久しい。日本や他の国ならば暴動や革命・クーデターもの様にも思えるが、豊かな国土や資源に恵まれたアルゼンチ

ンの懐は深いのか、国民的な必需品のマテ茶にアサードと呼ばれるアルゼンチン BBQ と、そして赤ワインさえあれば皆ハッピーで人生をエンジョイしているかの様にも見える。



写真左上から: マテ茶/ブエノスアイレス大司教時代の現ローマ法王フランシスコ、アルゼンチンのカウボーイ＝ gaucho、アサード/レストラン等での本格的なもの、家庭でのもの

しかし、サッカーになると話は別だ。普段でも熱狂ファンの多いサッカー。また、その度が過ぎて奥さんから離婚されたとの話も聞くサポーターたち。ワールドカップになれば、その熱狂度はピークに達する。10人いれば最低でも10の異なる意見があるアルゼンチン人も、この時ばかりは一つになる。

因みに、現在、世界的に誇れるアルゼンチン人と言えば、前述のメッシ選手、そしてローマ法王フランシスコの二人だと思う。実は法王はサッカーの大ファンでもあり、地元チームの長年のファンでもあったことは有名な話である。



写真左から: 勝利を喜ぶメッシ選手、アルゼンチン選抜のユニフォームを贈られて返礼するローマ法王フランシスコ



ローマ法王には失礼ながらネットからのパロディー写真2枚

ワールドカップのTV観戦をしていて、ふと思うことがある。アルゼンチンの庭の野鳥は、不思議なことに、試合に集中する人間たちに気を遣うかのように試合中は鳴かずの沈黙だが、試合が終わると一斉に鳴き出すと言う現象にあう。気のせいだろうか。野鳥も人間と一体化してるのを見るのは面白い。アルゼンチンでは、野鳥も人間もワールドカップでは一つだ。

7月1日(火):アルゼンチン、1次リーグは順当に勝ち抜き、決勝トーナメントへと進んだ。決勝トーナメント1回戦はスイスとの対戦。午後1時に試合開始、TV中継を見た。就業時間中のはずだが、街の中は車も人間も人っ子一人いなくなる。「皆、仕事は放って何処かでTV観戦か?」、などとの愚問を抱いても仕方がない。仕事よりワールドカップの方が優先順位が高いのに決まっている。私も駐在員時代に、どうせ仕事にならないのは分かっているので、「会議室のTVでどうぞ!」とスタッフには言ったものだ。



写真左上から:ブエノスアイレス・ビジネス街/試合中は道路には車も人もいない、試合終了直後に車や人がポツポツと。郊外の幹線道路/試合中は車が見えない、黙々と牧草を食む牛たち、しかし実は郊外に出ると普段でも同じ様な光景が...

簡単にアルゼンチンが勝つかと思いきや、スイスもしぶとく延長戦にもつれ込んだ。最後は、終了間際にメッシ選手からの絶妙なパスを受けたディ・マリア選手がゴールに蹴り込んだ。アルゼンチンは、この1点を守りきって1-0で準々決勝へと勝ち進んだのだ。



写真左から:ディ・マリア選手のゴールの瞬間、ディ・マリア選手と抱き合っているメッシ選手

7月5日(土):アルゼンチンは24年ぶりの準決勝進出をかけて、準々決勝でベルギーと対戦。否応なしにアルゼンチン国民の期待と熱狂は高まる。試合開始直後、メッシ選手がほぼ中央から右サイドを走るディ・マリア選手にパス、更にゴール前に駆け込むイグアイン選手へとパスをつなぎ、それをイグアイン選手が蹴り込んで絶妙な先制ゴール。アルゼンチンは、この先制ゴールを守りきって24年ぶりの準決勝進出を決めた。選手もサポーターも、この24年ぶりの快挙に歓喜した。折りしも土曜日、先制ゴール時と試合終了後の喜びの叫び声が街中に、そして近所の住宅・マンション街にもこだましたのは言うまでもない。



写真上左から:イグアイン選手のゴールの瞬間、ゴールを喜ぶイグアイン選手、メッシ選手とディ・マリア選手に祝福されるイグアイン選手、勝利を喜ぶアルゼンチンチーム

7月8日(火):ブラジルvsドイツの準決勝、午後5時からだ。今大会の決勝戦は是非とも南米の宿敵同士、アルゼンチン vs ブラジルでと期待する私には、この準決勝がとても気になっていた。だがしかし、試合時間が丁度、病院での定期検診のアポイントと重なってしまって、病院の待合室のTVで試合開始を見ることになった。試合開始直後、ドイツが早々にゴールして1-0になったのを見て私は診察室へ。診察を終えて再び待合室のTVを見ると、何と診察中にドイツが4点を追加して5-0と言う、全く信じられない光景がTV画面にはあった。

病院から家路を急ぐ車の中で、ラジオがドイツの6点目のゴールを伝える。信じられない。家に戻って早速TVをつける。間もなくして、又もやドイツのゴールで7-0へと。信じられない悪夢でも見ている様な光景がそこにはあった。しかし、ドイツはパスワークと言い、また、その正確さと言い、とても強い。この時点でドイツの勝利を確信し、期待をしていたアルゼンチン vs ブラジルでの決勝戦は夢と消えた。そして、対ドイツとの決勝戦に思いをはせるのであった。

最後にブラジルが1点を報いたが、既に時遅し。ブラジルのサポーターは、この信じられない光景を見ての悲嘆の表情と、TVに映る泣きじゃくる男の子の顔が脳裏に残った。7-1、「ブラジルの歴史的な敗北」の言葉に違わない試合であった。



写真左から:ドイツに7-1で敗北直後のブラジル・サポーター/嘆き悲しむ顔、顔、顔、優勝トロフィーの模型を逆さにしてぼう然と

7月9日(水):今度はアルゼンチンの準決勝。オランダとの準決勝は丁度、アルゼンチンの独立記念日の7月9日、祝日だ。独立記念日は、世界で一番広

い道路とも言われ有名な、首都ブエノスアイレスの象徴でもあるオベリスクの立つ「7月9日通り(Av.9 de Julio)」の名称にもなっている。オランダとの準決勝と重なってのダブルイベントとなった。

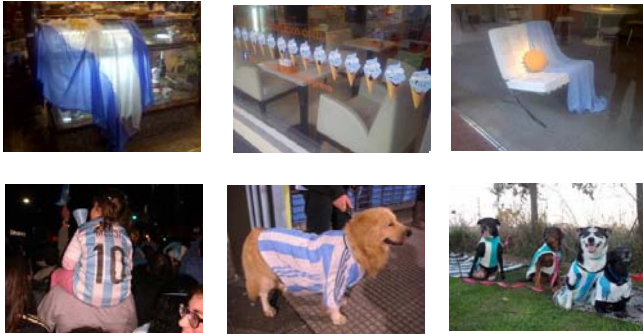
午後5時のキックオフ、否応なく国中、更に盛り上がった。接戦、延長戦の末、最後はPK戦となる。神経をすり減らす心臓には悪いTV観戦となった！しかし、勝利の女神はアルゼンチンに微笑んでくれ、PK戦を4-2で辛うじてオランダを制したのだった。

それまで静まり返っていた街に、地響きの様な勝利を喜ぶ歓喜の声と鳴り物の音が渦をなし、花火も加わって、住宅・マンション街にこだまする様は圧巻であった。国の、そして街の至るところに民衆が集まり、道路は人、人、人で埋め尽くされ、笛や太鼓に歌や踊りと、まるで優勝でもしたかの如くの大騒ぎが未明まで続いたのであった。



写真左上から:ブエノスアイレスの「7月9日通り」、普段は車や人で賑わうブエノスアイレスの道路も試合中はこの通り。オランダ・ロッベン選手とアルゼンチン選手たち。PK戦でのオランダ・ゴールを制して歓喜するアルゼンチン・ゴールキーパーのロメロ選手。PK戦で勝利の瞬間のアルゼンチン選手たち。勝利を喜ぶアルゼンチン選手とサポーター。勝利に歓喜するブエノスアイレス市内。「7月9日通り」も埋め尽くされた。

もうこうなると街の中は28年ぶりの優勝に向けて、更にそこら中でアルゼンチンの旗、旗、旗。そして、応援グッズなどが、あちこちで売られ、老若男女、子供たちや犬たちもアルゼンチン・チームの応援でワールドカップ一色だ。



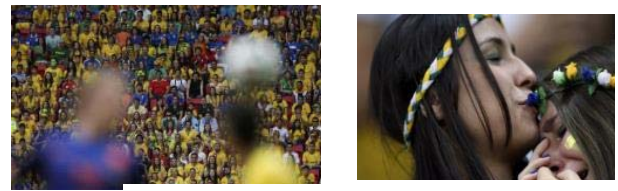
写真左上から：ケーキ・お菓子屋さんのショーケース、アイスクリーム屋さんの国旗色ソフトクリームスティッカー、家具屋さんのショーウィンドー、子供たちや犬たちもワールドカップ一色

7月12日(土)：ブラジルvsオランダの3位決定戦。この試合は緊張感もなくTV観戦できたが、ブラジルは試合開始後僅か3分にPKでオランダに得点を許すなど、ドイツとの準決勝に次いで精彩を欠いた。

一方、オランダはアルゼンチンとの準決勝で見せた様に攻守バランスの取れた試合運び、はげ鷹(?)の様に鋭いフォワードのロッベン選手の素晴らしい動きも健在であった。結局、オランダはブラジルに得点を許すことなく、3-0で完勝。ブラジルの選手、そしてサポーターはドイツ戦に続いて悲嘆の色は隠せなかった。準々決勝コロンビア戦で負傷のエース、ネイマール選手を欠いたブラジルには大変気の毒であった。



写真左から：7-1とドイツに屈辱的な敗北後の3位決定戦も3-0でオランダに破れ顔を覆うブラジル・スコラーリ監督にネイマール選手等



写真左上から：ドイツとオランダに計10ゴールされたブラジル・チームにブーイングのサポーターたち。優勝の夢が3位決定戦にも破れる悪夢に悲嘆のブラジル・サポーター。決勝進出は逃すもブラジルを破り3位のオランダ・チーム

7月13日(日)：いよいよアルゼンチンvsドイツの決勝戦の日がきた。1986年メキシコ大会(アルゼンチン優勝)に次ぐ1990年イタリア大会(ドイツ優勝)以来のワールドカップ決勝対決だ。その後、両チームともに優勝がなく、ドイツは24年ぶり、アルゼンチンにいたっては28年ぶりの優勝をかけた戦いとなった。

また、アルゼンチンにとっては1990年イタリア大会でドイツに負けて優勝を逃した24年越しのリベンジとなる。朝から何か落ち着かない。試合開始は午後4時だ。日曜日とあって流石に午前中は静かだったが、午後になると車のクラクションや鳴り物の音が街のあちこちで聞こえ始めた。ワールドカップ期間中、毎日、毎日、ブラジルやアルゼンチン各地からのTV中継があったが、それもピークに達した。

アルゼンチンvsドイツ決勝戦のキックオフ。期待と心配で緊張し、硬直した身体でTVに見入った。両チームともパスを回しながらゴールの機会をうかがう。パスワークやボールのキープ率の良いドイツがやや優勢に思えた前半であった。

しかし、試合開始後11分、ドイツ・エリア内に進みシュートを狙うアルゼンチン選手と、それを阻もうとするドイツ・ゴールキーパーとのクロスプレーはペナルティーに見えた。これでアルゼンチンのPKによる

先制ゴールかと思ったが、審判の笛はなかった。

後半はアルゼンチンがやや押し気味で冷静なドイツ選手にも苛立ちが見え、延長戦にもつれ込んだ。TV 観戦する私もアルゼンチン選手と一体となって力が入った。だがしかし、試合終了前数分のこと、僅かな間隙をついたドイツのシュート。勝利の女神はドイツに微笑んだ瞬間でもあった。決勝のゴールが決まった。

試合終了間際、アルゼンチンがドイツのゴール前でフリーキックを得た。アルゼンチン最後のチャンス、神に祈るような気持ちでメッシ選手のフリーキックを見つめた。だがしかし、彼の蹴ったボールはゴールを大きく超え観客席に突き刺さった。期待していたメッシ選手のミラクルシュートは最後まで見られなかった。

ワールドカップは1-0でドイツの勝利、24年ぶりの優勝で終わった。



写真左上から: ブラジル出身スーパーモデルのジゼル・ブンチェンと前大会覇者スペインの元主将プジョル選手が優勝トロフィーを持って登場。試合終了間際のドイツ・ゴールの瞬間。ドイツ・ゴールに飛び上がって喜ぶドイツ・メルケル首相。アルゼンチン・チームを励ますサポーター。優勝ドイツ・チームの表彰式を待つ間のアルゼンチン・チーム



24年ぶりの優勝トロフィーを手に歓喜のドイツ・チーム

試合終了直後、自宅マンションのベランダに出たが、街の中は水を打ったようにシーンと静まり返っていた。だが暫くすると、アルゼンチン選手の健闘を讃える歓声や車のクラクションや鳴り物の音が沸き起こってきた。街の中心部では、オランダ戦に勝った時と同じ様に、オベリスクを中心に「7月9日通り」を埋め尽くしてアルゼンチン選手たちの健闘を讃えていた。

しかし残念なことに、一部のならず者が騒ぎ始めて暴徒化し、警官・機動隊との衝突となって、善良な市民たちの集会をぶち壊してしまった。この様な騒ぎは、現在のアルゼンチンの状況を象徴するものだと思った。冒頭にも記した様に、政治も経済もボロボロ...



写真左から:ドイツとの決勝戦の応援に「7月9日通り」のオベリスクに集まるアルゼンチン・サポーターの群集。一部のならず者サポーターと警官隊との衝突の様子

7月14日(月):一夜明けた今日、アルゼンチン選手たちが凱旋帰国したが、空港から市内へ向かう沿道は選手たちの乗ったバスを迎える人たちで埋め尽くされた。皆々がアルゼンチン選手・チームの健闘と準優勝を喜び讃えた。昨晚と打って変わった光景は、とても嬉しいものであった。



写真左上から：ブエノスアイレスに帰還したアルゼンチン・チーム。帰還を歓迎するサポーターの群衆に取り囲まれるアルゼンチン選手たちの乗ったバス

選手たちの表情には疲れと、優勝を逃した悔しさが滲み出ていたが、これをバネに4年後のリベンジに再挑戦して欲しいと祈るものである。

<2014.7.14 ブエノスアイレスの自宅にて記>
『サラリーマン西遊記』の堀 哲三郎



書籍詳細サイト：（注：p.114 の「新刊紹介」参照）

<http://www.bungeisha.co.jp/bookinfo/detail/978-4-286-14603-4.jsp>

電子書籍サイト：

<http://www.boon-gate.com/books/details/3871>

Youtube：

<https://www.youtube.com/watch?v=EV6NdpEsDTo>

☆☆☆